

新しい自治体栄養士養成プログラム試行研修会（対面对応・遠隔対応）の実施と 受講者からの意見や評価

研究代表者 大阪公立大学大学院生活学研究科食栄養学分野 由田 克士
研究分担者 千葉県立保健医療大学健康科学部栄養学科 荒井 裕介
研究分担者 金沢大学医薬保健研究域保健学系看護科学領域 岡本 理恵
研究分担者 静岡県立大学食品栄養科学部栄養生命科学科 串田 修
研究分担者 青森県立保健大学健康科学部栄養学科 小山 達也
研究分担者 愛知県瀬戸保健所 澁谷いづみ
研究分担者 神奈川県立保健福祉大学栄養学科 田中 和美
研究協力者 神奈川県立保健福祉大学栄養学科 飯田 綾香
研究協力者 新潟県南魚沼地域振興局健康福祉環境部 磯部 澄枝
研究協力者 兵庫県健康福祉部健康局 諸岡 歩
研究協力者 静岡県健康福祉部健康局健康政策課 赤堀 摩耶

研究要旨

本研究班として、これまでに取り組んできた文献レビュー、都道府県・保健所設置市・特別区の主管部局や自治体に勤務する栄養士個人を対象とした調査・分析、関連の意見交換、先行で実施してきた研修会から得られた知見をもとにして、対面对応（一部遠隔対応）による新しい自治体栄養士養成プログラム試行研修会（主に中堅期を対象）を実施した。

受講者から寄せられた事後アンケートの結果によると、研修プログラムの内容は何れも概ね理解されている。また、自由記載から得られた内容を総合的に判断すると、各演者が講演した内容やグループワークの意図は受け入れられていると考えられる。従来の自治体栄養士養成プログラムでは殆ど触れられていなかった新しい研修内容、特に、自己効力感や自己肯定感を持って業務を展開するための対応や戦略、さまざまな組織に打ち込みながらの連携、業務の内容や範囲を拡大するための考え方や戦略などについては、高い関心が認められる。従前の調査結果によれば、中堅期以降の栄養士を対象とした養成プログラムにおいて、系統的に整理された内容を計画的に展開している自治体は皆無に等しく、このことが、自治体栄養士の業務の拡大や昇任に悪い影響与えていた可能性がある。今回試行・提案した内容を含め、何れの自治体においても、目指すべき姿に近づくことが出来るよう、養成プログラムの構築が求められる。

さらに、対面による試行研修会を基にして、①主として離島や都道府県庁所在地から離れた遠隔地で勤務する者、②いわゆる1人職種1人配置の自治体栄養士を対応とした、遠隔対応による新しい自治体栄養士養成プログラム試行研修会を企画・実施した。受講者から寄せられた事後アンケートの結果によると、研修プログラムの内容や遠隔による研修会の実施に関しては、概ね受け入れられていると評価された。しかし、今回の参加者は、何れも自由意志により参加した者に限られているため、参加申込みの段階から一定以上の向上心や危機感、あるいは、高い意識を有する者ばかりであった可能性がある。遠隔方式の研修は、事前の準備や研修時間中の環境のコントロールが必要であること、機器や通信トラブルに対する備えが必要であることなど特有の対応が必要となる。しかし、離島や遠隔地に勤務する自治体栄養士にとっては、受講に要する移動時間や費用の軽減に加え、遠隔であっても、講師や他の受講者を身近に感じることが出来るなど、メリットも大きいと考えられる。

研修の目的や内容あるいは主たる対象者に応じ、対面方式と遠隔方式の両者をうまく組み合わせながら、長所を最大限引き出す研修会の企画が求められる。

A.研究目的

本研究班として、これまでに取り組んできた文

献レビュー、都道府県・保健所設置市・特別区の
主管部局や自治体に勤務する栄養士個人を対

象とした調査・分析、関連の意見交換、先行で実施した研修会をベースとして、対面対応（一部遠隔対応）による新しい自治体栄養士養成プログラム試行研修会（主に中堅期を対象）を実施した。受講者からの意見や評価を得て、基本的なプログラムの内容や進め方を検証した。

また、これとは別に試行研修会を基にして、①主として離島や都道府県庁所在地から離れた遠隔地で勤務する者、②いわゆる1人職種1人配置の自治体栄養士を対応とした、遠隔対応による新しい自治体栄養士養成プログラム試行研修会も企画・実施した。受講者からの意見や評価を得て、この種の方式による基本的なプログラムの進め方を検証した。

B.研究方法

1-1) 試行研修会の開催

2022(令和4)年11月18日に計画された令和4年度兵庫県行政栄養士研修(第2回栄養指導員資質向上研修)について、兵庫県と本研究班が連携し、研究班が提案する新しい自治体栄養士養成プログラムに沿った内容で実施した。

1-2) グループワークに際しての班分け

この研修会中には2回のグループワークを設定した。その際の班分けは、参加者における現在の勤務先に応じ、6つの班とした。

1-3) 事前課題

事前課題として、1) 振り返りシート、2) キャリアシート、の書式ファイルを送付し、研修会前までに完成させて置くことを求めた。また、必要に応じ、3) 経験振り返りシートも活用してよいこととした。

1-4) 研修内容とタイムスケジュール

予め、表1-1に示す研修内容とタイムスケジュールを調整しておき、これに沿って研修を進めた。全体の進行、講演・情報提供は、研究班員が務めた。これとは別に厚生労働省健康局栄養指導室担当官(栄養指導室長補佐、栄養指導室主査)からも、挨拶、講演、コメント等を得た。

1-5) 試行研修会終了後にアンケート調査

研修会終了後における参加者からの評価・意見を把握するためのアンケート調査を実施した。

2-1) 試行研修会(遠隔対応)の開催周知

2023(令和5)年3月4日に本試行研修会(遠隔対応)を実施することにした。事前に参加者を募集する段階で、参加希望者が予定の定員(35名)を超えた場合には、次の①②に該当する者が優先的に参加できることを明示した。①離島の市町村や保健所に勤務している者、ならびに、都道

府県庁所在地に移動するため最も速達な手段を用いても陸路で概ね2時間以上を要する市町村(保健所設置市を除く)や保健所に勤務している者。②現在勤務している市町村もしくは保健所における管理栄養士等の配置が1人のみである場合。これは、この試行研修会が①②に該当するものを主たる参加者として企画していることを事前に告知することを意図したものである。

参考資料2に研究班独自のホームページ上に掲載した募集要項を示す。あわせて、職能団体や行政栄養士に関連したメーリングリストなども活用し情報を拡散した。

2-2) グループワークに際しての班分け

本研修会中に2回のグループワークを設定した。その際の班分けは、参加者における現在の勤務先と勤務歴(参加申込時に把握)に応じ、表1に示す6つの班とした。

2-3) 事前課題

対面方式での試行研修会と同様に、事前課題として、1) 振り返りシート、2) キャリアシート、の書式ファイルを送付し、研修会前までに完成させて置くことを求めた。また、必要に応じ、3) 経験振り返りシートも活用してよいこととした(書式は対面方式での試行研修会の内容と同じ)。

2-4) タイムスケジュール・進行

予め、表2-2に示すタイムスケジュールを作成し、これに沿って研修を進めた。全体の進行、講演・情報提供、グループワーク時のファシリテーターは、研究班員が務めた。これとは別に厚生労働省健康局栄養指導室担当官(栄養指導室長補佐、栄養指導室主査)からも、挨拶、指定発言、コメント等を依頼した。

2-5) 講演ならびに関連情報の提供時に用いたプレゼンテーション資料

講演Ⅰと関連情報の提供、講演Ⅱの際に用いたプレゼンテーション資料は、別紙資料に示すとおりである。

2-6) 試行研修会終了後にアンケート調査

研修会終了後における参加者からの評価・意見を把握するためのアンケート調査を実施した。

C.研究結果

1. 試行研修会(対面対応)

1-1) 参加者数

兵庫県内の自治体(県、保健所設置市、その他の市町)よりのべ39名が参加した。ただし、このうち8名については、新型コロナウイルス感染症予防等の都合によりオンライン参加となった。

1-2) 研修会の実施状況

概ね事前に設定したタイムスケジュール(表1-

1)に添った対応で進行した。

1-3)参加者からの評価・意見

試行研修会終了後に参考資料1に示すアンケートを実施した。37名から回答が得られた。

対象者の基本属性を図1～図3に示した。また、各講演・グループワークの理解度の状況を図4に示した。さらにそれぞれに関する回答の理由などは、別記1-1から別記1-6に示した(ただし、個人が特定できるような記載や明らかなミスタイプなどは、回答の意味が変わらないように調整をしている)。受講者から寄せられた内容を総合的に判断すると、今回の研修プログラムの内容については、何れも概ね理解されている。

2. 試行研修会(遠隔対応)

(1)参加者数

35名の定員対して、全国から34名の事前申込みがあった。しかし、当日になって、うち2名より、何らかの理由により、参加できない旨の連絡を受けたため、最終的に参加した者は32名であった。

(2)試行研修会(遠隔対応)の実施状況

概ね事前に設定したタイムスケジュール(表2)に添った対応で進行した。

(3)参加者からの評価・意見

各プログラムについて、5件法(非常に参考になった・参考になった・どちらでもない・あまり参考にならなかった・全く参考にならなかった:これらから1つを選択)で評価を得ると共に自由記載で意見を把握した。具体的には次のとおりである。

○1. 講演Ⅰ+関連情報の提供について

参加者32人中、30人から回答が得られ、非常に参考になった16人(53.3%)、参考になった14人(46.7%)であった。

○2. 講演Ⅰ+関連情報の提供についての意見(自由記載)

別記2-1に示した。

○3. グループワーク①について(非常に参考になった・参考になった・どちらでもない・あまり参考にならなかった・全く参考にならなかった:1つ選択)

参加者32人中、30人から回答が得られ、非常に参考になった18人(60.0%)・参考になった12人(40.0%)であった。

○4. グループワーク①についての意見(自由記載)

別記2-2に示した。

○5. 講演Ⅱ「組織と仕事の進め方」について

(非常に参考になった・参考になった・どちらでもない・あまり参考にならなかった・全く参考にならなかった:1つ選択)

参加者32人中、30人から回答が得られ、非常に参考になった17人(56.7%)・参考になった13人(43.3%)であった。

○6. 講演Ⅱ「組織と仕事の進め方」についての意見(自由記載)

別記2-3に示した。

○7. グループワーク②について(非常に参考になった・参考になった・どちらでもない・あまり参考にならなかった・全く参考にならなかった:1つ選択)

参加者32人中、30人から回答が得られ、非常に参考になった18人(60.0%)・参考になった11人(36.7%)・どちらでもない1人(3.3%)であった。

○8. グループワーク②についての意見(自由記載)

別記2-4に示した。

○9. 厚生労働省に出向して学んだ施策づくりの進め方について(非常に参考になった・参考になった・どちらでもない・あまり参考にならなかった・全く参考にならなかった:1つ選択)

参加者32人中、30人から回答が得られ、非常に参考になった15人(50.0%)・参考になった14人(46.7%)・どちらでもない1人(3.3%)であった。

○10. 厚生労働省に出向して学んだ施策づくりの進め方についての意見(自由記載)

別記2-5に示した。

○11. 本研修会へ意見や改善点等、自由にお書き下さい(自由記載)

別記2-6に示した。

D. 考察

本研究班として、これまでに検討してきた新しい自治体栄養士養成プログラムによる試行研修会を企画し、実施した。

従来の自治体栄養士養成プログラムでは殆ど触れられていなかった新しい研修内容、特に、自己効力感や自己肯定感を持って業務を展開するための対応や戦略、さまざまな組織に打ち込みながらの連携、業務の内容や範囲を拡大するための考え方や戦略などについては、高い関心が認められる。

従前の調査結果によれば、中堅期以降の栄養士を対象とした養成プログラムにおいて、系統的に整理された内容を計画的に展開してい

る自治体は皆無に等しく、このことが、自治体栄養士の業務の拡大や昇任に悪い影響与えていた可能性がある。今回試行・提案した内容を含め、何れの自治体においても、目指すべき姿に近づくことが出来るよう、新しい養成プログラムの実施と自治体の状況に応じた既存プログラムの選択による総合的な体制の構築が求められる。

一方、対面方式での知見を基に遠隔方式でも試行研修会を企画し、実施した。受講者より事後に得られた評価や意見・感想を確認する範囲では、研修プログラムの内容や遠隔による研修会の実施に関しては、概ね受け入れられていると評価できる。しかし、今回の参加者は、何れも募集によって参加した者に限られていることから、以前より、一定以上の向上心や危機感、あるいは、高い意識を有する者ばかりであった可能性がある。このため、仮に特定の自治体が所属するすべての管理栄養士等に対してこの種の研修会を受講させた場合には、異なる評価や意見・感想が寄せられる可能性がある。今後、検証する必要がある。

遠隔方式の研修は、事前の準備や研修時間中の遠隔環境のコントロールが必要であること、機器や通信トラブルに対する備えが必要であること等、対面の研修に比べ特有の異なる対応が必要となる。しかし、今回の参加者のような、離島や遠隔地に勤務する自治体栄養士にとっては、受講に要する移動時間や費用の軽減に加え、遠く離れていても、講師や他の受講者を身近に感じることが出来るなど、メリットも大きいと考えられる。ただ、対面による研修には、遠隔研修では得られないような、微妙なニュアンスのやり取り、講師や他の受講者と直接肉声で会話できる親近感などが認められる。これらのことから、今後展開して行くのであろうすべてのプログラムを遠隔対応で実施するというのではなく、研修の目的や内容あるいは主たる対象者に応じ、両者をうまく組み合わせながら、長所を最大限引き出せるような研修会の企画が必要と考えられる。

E. 結論

本研究班として、準備してきた新しい自治体栄養士養成プログラムを企画・実施した。事後に受講者より得られた評価や意見・感想を確認する範囲では、当該研修会の目的や実施内容は、対面方式、遠隔方式の何れであっても、概ね受講者に受け入れられ、一定の成果を達成出来たともの考えられる。

F. 研究発表

- (1) 論文発表
なし
- (2) 学会発表
なし

G. 知的所有権の取得状況

- (1) 特許取得
なし
- (2) 実用新案登録
なし
- (3) その他
なし

表 1-1 タイムスケジュール

時間	内容	備 考
10:00～	受付	受付(兵庫県担当者) 講師スライド確認(兵庫県担当者)
10:30～ 10:35	開会・挨拶	進行(諸岡)、挨拶(兵庫県課長) ※資料確認、スタッフ紹介、今日の流れ、講師紹介
10:35～ 11:05 (30分)	講義1「新しい自治体栄養士養成プログラム」 ～研究班で分かったこと、中堅期の役割、中堅期以降で身につけておきたいこと～	由田
11:05～ 11:50 (45分)	講義2「行政栄養士の戦略の立て方」 (1)栄養の主流化に向けた「戦略的仕掛け」の実際	厚労省〇〇補佐
11:50～ 12:00 (10分)	(2)厚生労働省に出向して学んだ施策づくりの進め方	厚労省〇〇主査
12:00～ 13:00 (60分)	昼休憩	
13:00～ 13:40 (40分)	講義3 「組織と仕事の進め方」	田中
13:40～ 14:50 (70分)	演習1「課題の明確化と交渉力」GW 55分 発表(3分×5G=15分)	田中
14:50～ 15:00	休憩	
15:00～ 16:00 (60分)	演習2「組織の中での栄養士」GW40分 発表(3～5分×5G=20分)	進行(諸岡)
16:00～ 16:25 (25分)	「励まし」と「まとめ」	講師等全員
16:25	閉会	※アンケート記入依頼

令和4年度 行政栄養士研修（第2回栄養指導員資質向上研修）アンケート

今年度の研修の評価とするため、御協力をお願いします。

お名前				
年代	(1)20歳代	(2)30歳代	(3)40歳代	(4)50歳代
地域保健の 経験年数	(1)5年以下 (4)16～20年目	(2)6～10年目 (5)20年以上	(3)11～15年目	
栄養士としての 勤務年数	(1)5年以下 (4)16～20年目	(2)6～10年目 (5)20年以上	(3)11～15年目	

問 1. 各講義や演習ごとでのあなたの理解状況について最もあてはまる内容 1 つを選んでください。また、回答の理由もお書きください。

講義 1「新しい自治体栄養士養成プログラム」

- (1) よく理解できた (2) 理解できた (3) やや理解できなかった (4) 全く理解できなかった

回答の理由

講義 2「行政栄養士の戦略の立て方」

(1)「栄養の主流化に向けた「戦略的仕掛け」の実際」

- (1) よく理解できた (2) 理解できた (3) やや理解できなかった (4) 全く理解できなかった回答の理由

(2)「厚生労働省に出向して学んだ施策づくりの進め方」

- (1) よく理解できた (2) 理解できた (3) やや理解できなかった (4) 全く理解できなかった回答の理由

裏面もあります⇒

講義3「組織と仕事の進め方」と 演習1「課題の明確化と交渉力」

- (1) よく理解できた (2) 理解できた (3) やや理解できなかった (4) 全く理解できなかった回答
の理由

[]

演習2「組織の中での栄養士」(グループワーク)

- (1) よく理解できた (2) 理解できた (3) やや理解できなかった (4) 全く理解できなかった回答
の理由

[]

問2 この研修に参加した理由は何ですか。最も当てはまる内容1つを選んでください。

- (1) リーダーシップ論、組織論を理解することが施策展開に重要だと思ったから
(2) 自分の成長や自分が今後どのような働き方をしたいか、について研修の中で考えたかったから
(3) 後輩の育成や自組織の人材育成体制整備を進めるにあたり、ヒントが欲しかったから
(4) 「公衆衛生領域を中心とした自治体栄養士育成プログラム」に興味があったから
(5) 講師陣が魅力的だったから
(6) 所属内で研修を受ける順番だったから
(7) その他 ()

問3 本研修を受講した成果として、当てはまる内容全てを選んでください。

- (1) 学ぶことの大切さに改めて気づき、これまで以上に学んでいこうと思えた
(2) 自分が今後成長していく姿を、よりイメージすることができた
(3) 今後、どんな働き方をしたいか考えることができた
(4) 組織の中における自分の立ち位置や役割について考えることができた
(5) 日頃の不安や悩みが少し解消された
(6) 明日から「できること」「やりたいこと」がみつげられた
(7) その他 ()

問4 本日の研修会で印象に残った点等自由にお書きください。

[]

ご協力いただきありがとうございます。

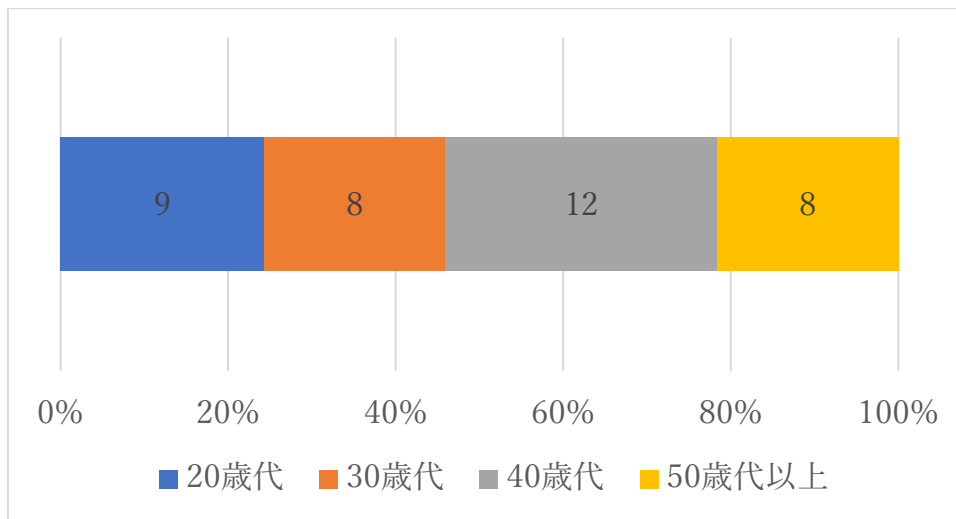


図1 参加者の年齢階級

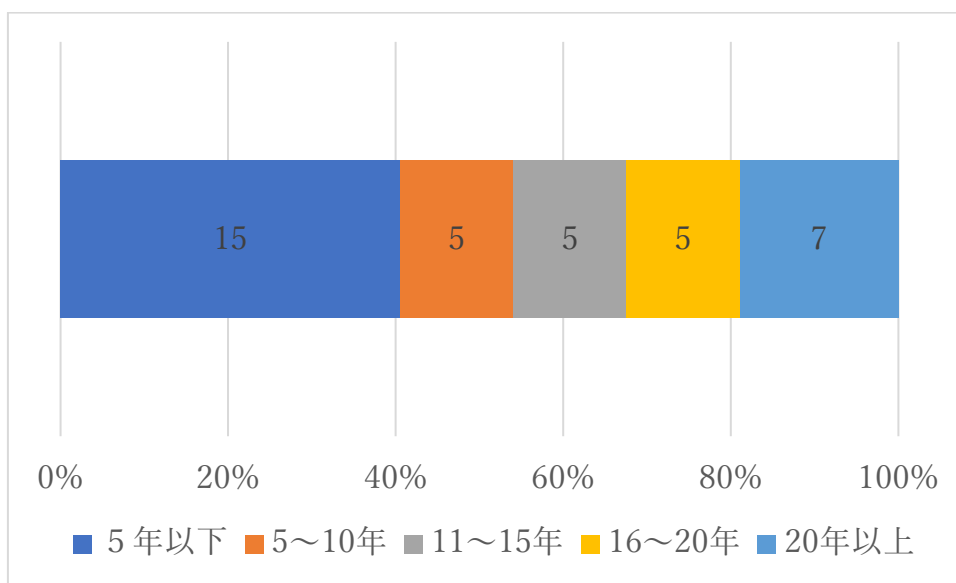


図2 地域保健業務の経験年数

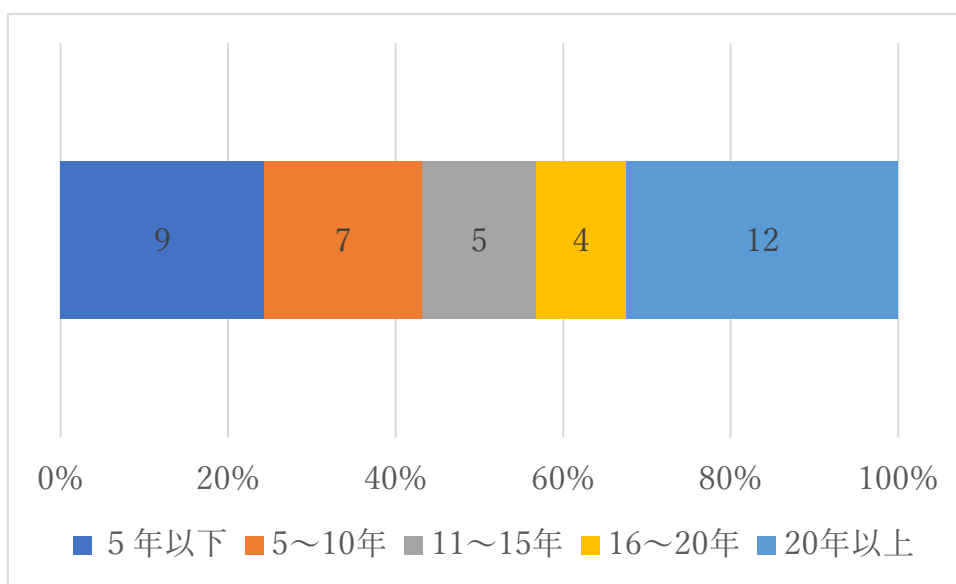


図3 栄養士としての勤務年数

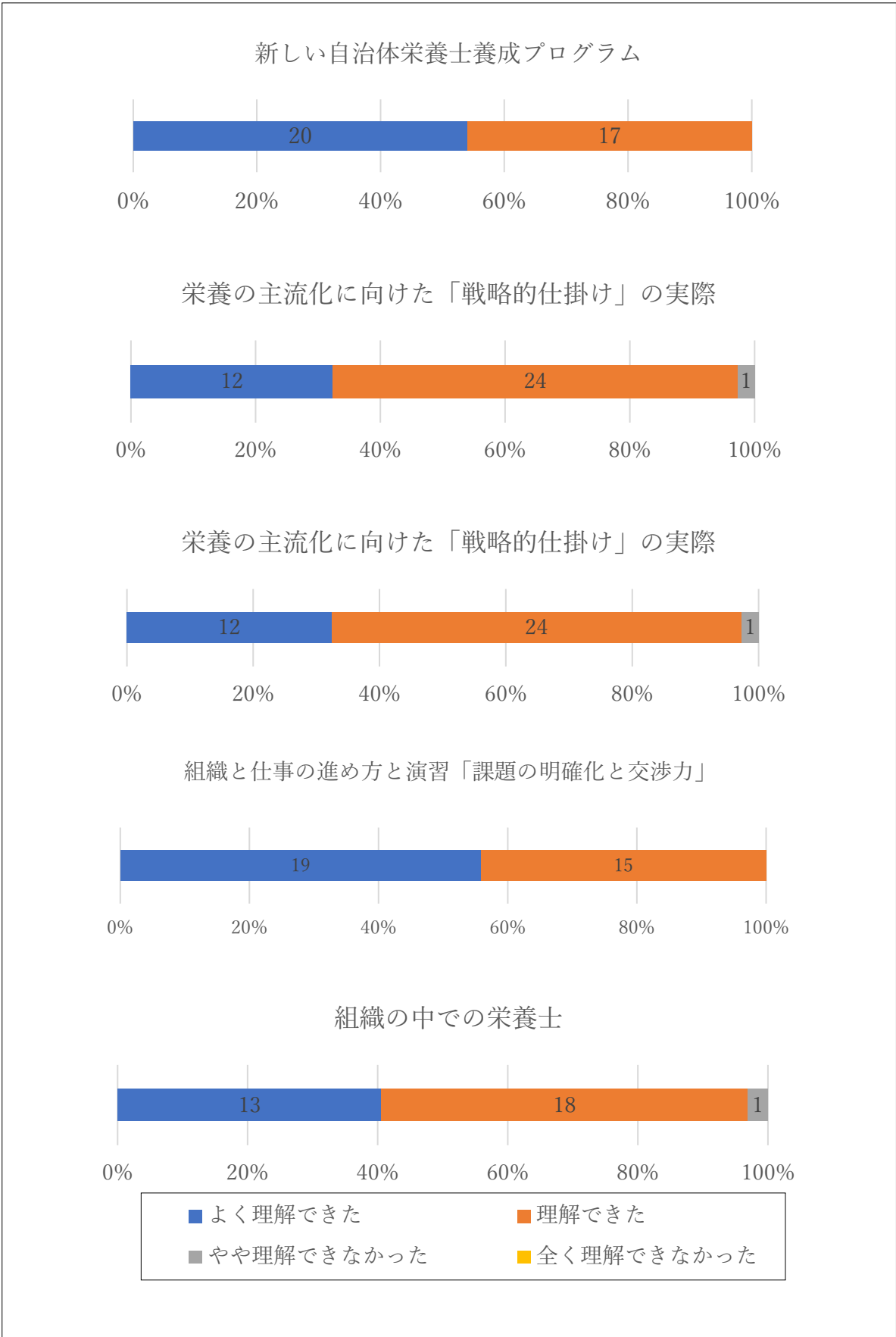


図4 各講演・グループワークの理解度

別記 1-1. 新しい自治体栄養士養成プログラム（自由記載）

- 少数配置の職種だからこそ、同職、他職とのつながり、相談できる相手を作ることの大切さを改めて感じました。
- 新任期のうちには豊富にある研修も、経験年数を重ねていくうちに中堅期を対策とする研修は少なく「人材育成」という言葉ばかりが先行して教育する側の育成ということがおざなりになっていることがわかった。今、新任期として一生懸命学んでいることが次の世代につなげていけるように少しずつ自分のキャリアを積んでいきたいと思った。
- 10年後も見据えた新しい自治体管理栄養士養成プログラムのアウトライン+αの図が示され、今後必要な課題等が明確に理解することができた。
- 報連相、今一度見直したいです。新任期は～3年？～10年？
- 前回の研修に続きの内容であったが、すでに忘れていたことがあり、反省とともに改めて学ばせていただけることに感謝しております。報連相を大切に戦略的視点を持ち日々の業務に活かします。
- 今の自分の現状にマッチした内容で、研究班の最終プログラムを心待ちにしています！
- 戦略を立案、実現するためのヒントが得られた。自分自身は自己肯定感がかなり低いので、今後、自己肯定感があげられるようにしていこうと思いました。
- 行政栄養士として働きだして間もないが、やはり健康福祉事務所は保健師さんが中心に働いているので、栄養士ももっと積極的に動き存在感を高めることが必要と感じていたので、必要なことだと思いました。
- 人材、資源、予算、情報の把握と活用や交渉力、仕事のシャープな見せ方など私の理想は〇〇班長や〇〇補佐です。そして自分にはそのような能力がないのも自覚しているので、指し示して下さる方がいることに感謝し、それについていけるよう頑張りたいです。ありがとうございます。
- 「自らの意思を伝える」ことは、もっとやっていくべきだと思った。一生懸命やっているけど、栄養部門外の人には伝わっていないだろうと感じているので。あと、相談できる人と阻害要因の除去が必要だと思う。私にとっての阻害要因は知らない知識はまだ無限にある不安。新しい情報へのアンテナ。除去したいが時間も足りない。
- 昔も今も何をやるにも栄養は基本となり得ることがわかった。「誰一人取り残さない」を推進するためにも、まずは自分の能力を身に付けたり、しっかり報連相をする必要があると感じる。他職種と比べて庁内で管理栄養士の数が少ない分、栄養のことが置いてけぼりにならないようにしないといけないと感じた。
- 自分の現状の立場などを振り返る機会になった。
- 前回はアンケート結果からどのような人材育成プログラムなのか少しわかりずらいところがあったが、今回はプログラムの主旨・構成がよくわかった。
- 人との関わり方が仕事の出来や生活の質に影響が大きいと改めて感じた。
- 中堅期で身に付けておくべき役割を新任期のうちから知っておくことで自分がどのように成長していくべきか分かった。後輩の立場からでも役に立つこともあった。
- 前回と合わせて受講することで、より理解することができた。
- 資料が分かりやすかったです。
- 先生の言葉の使い方が上手で私にも理解できたから。また、改めて気づかされることが多く、振り返りになることが多かったから。
- 他部署から人、予算を確保するという考え方、それを成功するための交渉力と理論立てて理解できました。HYOGO あさ@プロジェクトが、その成功例だとつながりました。
- 新任期の研修や育成プログラムが割と整っている自治体が多いと思うが、中堅に対してのサポートが薄い点があると再認識した。一人職場・少数職場だと、どうしても自分の弱みの部分で評価されてしまうことも考えられ、そういったときは他部署の栄養士とも協力できるつながりをしておくことが大切と思った。
- 食事、人材、エビデンス、その組み合わせの大切さ。他職種への打ち込める力について学ぶ

- ことができた。実際の業務で行っている場面もあったため、継続していきたい。
- 研修として初めて聞きました。心のどこかでモヤモヤと漢字ながら仕事をしてきたことの一つがこれだったのかと思いました。
 - 少しずつ研究が進み、私たちの意見や考えをどんどん取り入れていただけているということがよくわかります。前回9月の県研修の次の日、課長に報告。「〇〇先生の言うとおりのや!! 『保健部は皆。政策能力がなさすぎる!今からでも本気で考える気持ちがあるのなら政策あげたら・・・』と。次の日ヒアリングし、”子ども食堂における食育の取組み”を既存事業の拡大として現在、政策としてすすめることができました。(財源は課内で見直した額でONとなりスクラップすることなくすすめられています) 〇〇先生、そして県研修のおかげです!!
 - 何度か〇〇先生の話聞いていたのでよく理解できた。いろんな部署に栄養士がいて、若い世代も増え、自分のモチベーションの維持と若い人を育てる業務をひしひしと感じ、よい学びができた。
 - 自分自身を振り返り、今後の成長に向けてやるべきこと、後輩の育成に向けてやるべきことが明確になった。
 - 積極的な施策立案と展開するための「打ち込み論」と交渉力を高める等、中堅期以降に必要なプログラムとして漠然としていたイメージが明確になった
 - “自分の弱い部分・苦手意識のあることについて、克服しようとしても出来ないままで、その出来ない自分だけで物事を進めようとする、小さく、狭く、こじんまりとまとめ、仕事内容・幅がせばまる。人に頼るというか、つながり、また、阻害要因を除去・改善しておく必要があるということ、身にしみました。”
 - “栄養士は自己肯定感が低く、その自己肯定感をどうあげるか、下げないかという視点を示してもらえた。報連相の話も参考になった。”
 - “積極的な施策の立案と展開、交渉力を高めるためのスキルの獲得できるようなプログラムに期待しています。”
 - 低栄養やフレイル予防など、高齢化が進む中で今後取り組まなければいけない栄養施策の方向性など、自身の業務分野外の栄養に関する情報についても知っておく必要があると感じた。
 - 新しい自治体栄養士養成プログラムの完成が楽しみです。前向きに自己効力感を上げる取組みや報連相など改めて大切だと思いました。
 - この春から自治体栄養士として働くようになり、まだいろいろとわからないことがある中で、これからどのように活動していけばいいのかなどを学ぶことができました。
 - 自分の意思を伝えること、正確に伝えることのスキルは大切だと改めて感じました。広く密接に関係するのが栄養なのに、周りに上手く伝えられず、埋もれるような状態になってはいけなかったと思います。そのためにも中堅期のプログラムがあるとすごくいいなと思いました。
 - 栄養業務はSDGsの目標とリンクしていると感じてはいたが、講義を聞いて再確認することができた。今年度の健やか事業では、どのアイコンに当てはまるのか考えながら進めているが、今後、他の業務についても考えながら進めたい。

別記1-2. 栄養の主流化に向けた「戦略的仕掛け」の実際（自由記載）

- 他職種との連携のため、ESG思考等もふまえた戦略的な仕掛けが必要であること、勉強になりました。
- 栄養業務は課内でも知られていないことも多いが自分も課内の他職種の仕事内容を知らないことに気づき、連携し合ったり、お互いの強みを活かすあうには、相手のことを知る姿勢にまず取り組んでいきたいと思った。
- ブルーオーシャン、レッドオーシャンや戦略的思考トレーニング等、企業ならではの考え方をどのように行政に落とし込むのかを知ることができた。
- 〇〇補佐の教養ある講義で少し仕事へのモチベーションが上がった。社会情勢がどうなのかを把握したうえで、栄養政策を考えられるよう、具体的な本を知れて良かった。頑張った

人がインセンティブ（給料）反映されるようになると私はより頑張ると思える。今はできる人は、しんどい部署に行くイメージを持っているため。

- 周りを巻き込むために、他部署のことをよく知り、学び、営業する必要があると強く感じました。本日初めて学ぶ言葉（ESG、アウトサイドイン）これが他部署やビジネス界では常用語であり、勉強不足を痛感しました。おすすめ書籍を1冊ずつでも読み、視野を広げたいと思います。
- 打ち込む、巻き込んでいくために、相手の分野の勉強、理解が不可欠だと改めて感じました。知った上で、新たに何を創出できるのか、提案できるのか考えていきたいです。
- 多部署（企業等）で主流となっているワードがたくさんあったが、そのような知識を身につけることで、他部門との交渉がスムーズに進むのではないかと思った。
- 企業と連携して動くことはあまりできていないが、一般の方の栄養状態などを改善するにはとても必要なことだと思うので、今後必要になってくるスキルだと感じた。
- 打ち込み論や戦略的仕掛けの作り方のお話が参考になりました。幅広い視野が必要だと思うので、おすすめいただいた書籍を読んで学びを深め、それを使いこなせるように努力したいです。
- とてもスケールの大きい難しい話だと思いながら聞いていましたが、自分の仕事、今の業務に活かせる場所もあると思った。戦略という考えを伝えたりしていなかったのが、ヒントになった。最後の「The power of yet」という言葉で、ちょっとほぐれた。
- 世界的にも栄養に関する戦略はこんなにも進んでいることを再認識できた。庁内でも普段はヘルス部門内で他職種と連携することが多いが、高齢介護や社会福祉、子育て部門とも協力したり、相談できる場所を増やしていけないと感じた。存在意義を考えることで初心に戻り、必要なことは何かを考え、よりよい食環境づくりに貢献したい。
- 栄養の主流化の自分の取り組み方などを知ることができた。
- 打ち込みに必要な力、目のつけどころがとてもよくわかった。担当していて熱意をもって取り組んでいく大切さを改めて感じた。
- 何がやりたいか、どうするべきかという点ではっきりわからないままであったが、何が求められていて、どう解決していくかを考えることが大切だと知った。行政栄養士の立場を理解し、目標を立てたいと思った。
- 主体性をもって自分が目指すビジョン、目標を明確にして業務を行うことで、他職種に対しても栄養士の業務を理解してもらい、事業を進めるにあたって障害となるものが少なくなっていく、結果的に効率的な事業展開につながると感じた。
- 今まで勉強してきた分野と違うことを知ること、栄養士としての仕事をよりやりやすくなるのだと思った。
- ビジネス用語も多く交え勉強になりました。
- 少し内容が難しく、しっかり理解できなかったが、簡単に言葉の意味が分かりやすいところは理解できたから。自分の勉強不足のところがあったから。
- 社会や組織の中での存在意義をつねにかんがえながら、仕事をすすめたいと思います。
- 「the power of yet」まだ”できない、していないだけで、やれば実践できることが普段の仕事の中でもたくさんあるのではないかと気づかされた。自分の限界を決めず、常に学んで成長することを目指したい。
- 存在意義について、自分の立っている意義について考える機会になった。また、関係課だけでなく、広く働きかけを行うことについて、どの事業施策で行えるのか検討していきたい。
- ESGのあたりが、頭ではわかるが難しかった。これまでこうだったから、と何気なくつづけていることがあるので、しなやかマインドを持っておきたい。
- 熱い思い、広い視野に毎度感銘を受けます。行政経験が長くなると、視野がどんどん狭くなることを認識しているので、〇〇補佐のおはなしは、いつもネットで何回も知らない言葉を調べながら新しいことの学びにつながります。咀嚼するのに時間が必要ですが、まだの力を大切に少しずつ他者へ伝えるために、戦略方法を考えていきたいです。退職するまでにまた会えるかしら…（笑）

- 通常、オンラインでしか、お会いできない〇〇補佐のむだのない話に感銘を受けた。「戦略的仕掛け」普段の仕事の中で小さな小さな交渉はしているが、もう少し資料作りに力を入れながらやってみようと思った。
- 思考が言語化され、整理できた。戦略の概念が具体化できた。
- 専門的な知識以外に必要な知識について知ることができた。
- 施策立案のためには、現実とのギャップを把握することが必要あり、目標を実現するためのシナリオをつくる。また、アウトサイド・インの思考を取り入れながら、社会のあるべき像や市民の利益を考える。また、バリュープロポジションが大変興味深く、自分で改めて調べ、活かそうと思った。
- “地域のニーズに応じた他ができない、あるいは手薄な部分について、行政だからこそ出来ること、先方の目線にたって、先方の利益を考え、先方に合わせた言葉や見せ方、そのためには、相手(先方)をよく知ることから始めたいと思います。”
- 様々な分野から参考になること、他職種や上司への説明に活用できることの紹介をいただいたと思うが紹介してもらった本等の内容を自分が知らないため、理解しきれなかったです。
- 栄養の主流化に向けての取り組み方、考え方について分かり易く教えていただきました。ESG 思考、アウトサイドイン、マインドセットぜひ活用できるようにしたいです。
- 資料の中で興味深かったのが、(参考)である。SDGs は社会全体としての認識はあったが、栄養改善の取組においても全体の問題として捉え、達成に向けた解決がそれぞれ重要だと思った。
- 大きな希望や前向きな気持ちになるお話しでした。日々悶々としていた内容について、戦略的にどうしていくかを具体的な手法・考え方や整理された情報などを知ることができてよかったです。
- 経済界の動きや新しいいろいろな考え方について学ぶことができました。
- 存在意義をもう一度明確にしたいなと思いました。できていないことはまだ多いですが、The power of yet の気持ちで進んでいきたいなと思いました。
- 業務の取り組み方、進め方について学ぶことができた。硬直マインドセットになりがちなので、“まだの力” と考えなおしてみたいと思った。

別記 1-3. 厚生労働省に出向して学んだ施策づくりの進め方 (自由記載)

- 相手に伝わる資料作りの難しさ、大切さ等、共感できました。
- 「まず目指すべきゴールを設定して、そこから逆算してシナリオを描く」ということに、今に一生懸命にこだわりすぎず、先を見返すこともとても大切だと思った。
- 県の栄養施策とはことなり、より幅広い示唆や決定権を持つ業務に関わることを学んだ。
- 土台として必要なスキルは具体的な例もあり非常に参考になりました。
- 厚労省への出向での学びが多岐にわたり、本当に大変なんだろうなと思いました。その中で学びを着実に活かされている姿が印象的でした。イニシアチブの図、じっくり内容はもちろんのこと、どう見せるか、発表するかも大切だと思いました。読みます！
- 試料の作り方、見せ方、細かなところまで寝られていることがよくわかり、今後の資料も熟読したいと思いました。
- どのようなスキルが必要か知ることができた。
- 厚生労働省に出向とのことであつたが、現場の意見はとても大切なので今後もこういう国の施策にも栄養士が入っていければよいと感じた。
- 具体的な学びを教えていただけてとても良かったです。ありがとうございます。
- 栄養関係以外の業務の人と話をするには、幅広い領域の情報収集と知識もないと話にならないというのがすごく頷けることだとおもったが、いろんなことに対して貪欲でないと、今の私には大変なことだなと思った。いつもよく見るポンチ絵や伝えるためのインパクトのある言葉のチョイスの使い方にも戦略があるのだなと思った。
- 栄養以外の介護や社会科学、福祉に関する情報、スキルも他と協力、連携するためには必

須であることを学べた。日頃からいろいろなことにアンテナを立てておくことは大切だと感じた。

- 施策他に打ち込む姿勢、考え方と合わせて必須の土台も知れた。
- これから身につけたいスキルとか、どのようなことか具体的に知ることができた。
- 厚生労働省に出向があるということも最近知ったばかりで、行政栄養士の活躍の場が厚生労働省にもあり、どんな仕事をしているのかというところが知れた。栄養士の専門知識以外にも人として成長できる環境と思った。
- 出向されてどのようなことをされていたのか分かった。
- 2年目とは思われない仕事内容だった。とても参考になりました。
- わかりやすい説明でした。
- 実際どんなことをしているのか未知の世界だったが、くわしく説明してくださりわかりやすかった。
- 必須のスキルも教えていただき、県の外に出たからこそ気づいたことを共有いただけて参考になりました。
- 出向という形で、貴重な経験をされていることが分かった。ただ政策を立てるだけでなく、目標とする姿や関係者・関係団体が納得いく説明・根拠を示して発展させていく必要があると思った。
- 視界的な見せ方、特に上の立場の方の見せ方について。
- 自分の思いだけでなく相手に理解してもらえよう資料作りや説明する力を身につけた。まさに現上司が厚労省派遣された行政でして、スライド4の通り、この1年、資料作りに始まり、アンテナの張り方、必要なスキルなど、実際指導することをそばで見聞きしているので、おっしゃることがよくわかりました。
- 政策要求時に通例の資料作りしかできななかったが、それではダメなことがよくわかった。チラシや動画作成においても少し使えるかな？と思った。
- 簡潔でとてもわかりやすかった。
- 相手の理解を得るためには、見せ方が大事。そのためには、栄養以外の幅広い情報等の収集とわかりやすい構想図の作成スキルが必要。
- 打ち込んでいく姿勢、広い視野・柔軟な思考を身近で実践されておられる方がおられるので、すごくよい学び、体験をされ、〇〇県に戻られて、戦略的仕掛けの中心人物として活躍されるのだろうと思いました。やはり、実体験にまさるものはなし。その学びをどう生かすかは本人しだいだと思いますが… 自ら育つ!!ですね。
- 自治体職員、病院での経験をもとに今の仕事でどう説明するか、どう見せるかお話いただけてよかったです。
- バックキャストの考え方 見習わせていただきたいです。
- 土台として必須だと気付いた知識やスキルとして挙げられた項目は、栄養だけではない内容がほとんどで、私自身、もっと栄養をしっかりと学び、自信をつけなければいけないと感じているが、それ以外に学ぶべきことがまだ多くあると感じたため、日頃から少しずつ情報収集することに励みたい。
- 施策づくりの手法や工夫などが聞けて良かったです。
- 「五感」を鋭くして、前例にとらわれずに柔軟に考えていくことが大切だと改めて学びました。
- 伝える上で説明資料は大切だと思います。普段の業務でも資料作成をすることがあるので、資料作成等のスキル習得に努めたいと思いました。
- バックキャストの考え方を心がけておられると聞いて、目指すべきゴールの設定を自身も取り入れたいと思う。

別記 1-4. 組織と仕事の進め方と演習「課題の明確化と交渉力」(自由記載)

- 他部門への交渉は難しいなと感じた。課題と対応策を明確にすることで、どのような取り組むことができるかわかることに気づけました。

- 実践に役立ちそうな内容が多く、とてもわかりやすかったです。
- 交渉が苦手なので、すごく目から鱗でした。私は負け組なので交渉のいろいろな型があることを知り良かったです。勝ち負けにこだわらない、皆が良くなる Win-Win を考えていきたいです。
- 交渉力というところでまずは自分の強みは何なのか自覚し、考えをしっかりと持てる場所はしっかり伝えることが大事だと思った。100点でなく30点という考え方だけでなく、3割バッターならすごいやん！という考えがとても響いた。まずバッターボックスに立つことを使用と思えた。
- 業務において他職種と関わることが多くあるため、ぶれないように自分の考えをもって、話し（交渉）をしたいと感じた。今できることを自分らしく行い、周りに協力を求めることも大切だと気付いた。
- 自分の現状やコミュニケーション・交渉力などを考えることができた。
- 交渉力のつけ方、説明の仕方がよくわかった。
- はっきり伝えることが大切だと知った。文字で示すなどして考えを明確化しようと思った。
- 事業を進めるにあたって大切なことを学ぶことができた。またグループワークでさまざまな環境、職位でどのような課題があるのか分かった。
- 管内の市町と県の栄養士と意見交換できてとても良かったです。〇〇先生のお話、もっともって聞きたいです。
- 交渉について、よく理解できました。
- これまでの経験、具体例も示していただき、自分と照らし合わせて聞くことができよかったです。他市の状況も聞くことができ、情報共有することで、1つでも成果に繋がらと思った。
- 同じ市町村のメンバーと一緒にだったので、自分が上手に言えないところを補ってもらった。〇〇市、□□市の方とも顔知り合いなので、話もよく進み、他市の強み、歩みを知ることができた。
- 講評がとても参考になりました。今後の事業や企画主催の際に活用しようと思った。
- 目標を明確化することで、適切な解決策をとることができる。また、中堅期においては、効果的なコミュニケーション能力と交渉力が大事。
- 事例がわかりやすく、お話を聞きながら今の状況を想像して考えることができました。「効果的な交渉」ということを研修で聞く機会はなかったので、とてもよかったです。また、演習では他自治体の違った立場の方のお話がきけて、有意義でした。
- 他職種と連携することが必須だが、栄養士としての考えをしっかりとした軸としてぶれずにもっておくことも重要だと感じた。
- 日々準備しておくこと、7割でも行動に移すことなど、日常業務の振り返りになりました。
- 交渉は苦手としていたので、よりよい交渉になるための方法等についての理解を深めることができました。
- タイミングを逃すことなく自分から発信できるようにしていきたいなと思いました。偶発的なチャンスをつかめるように、実績を積んで交渉できる準備をしておきたいと思いました。
- 交渉力を身につけることの重要性がわかった。説明するためには、自分自身の理解を深めることで、これができないと不安につながると思った。Win-Winに導くシナリオを考えて見たいと思った。

別記 1-5. 組織の中での栄養士（自由記載）

- 他自治体の方との同じような悩みや、新鮮な考えが参考になりました。
- いろいろな立場や職場の栄養士さんの話が効けて、とても参考になった。
- 同じ悩みを異なる部署の人も持っていることを知ることができて少し安心できた。
- グループワークできて他の栄養士の話も聞けて良かったです。
- 同じ状況の中で前向きな意見を共有できて良かったです。
- それぞれの悩みであったり、共通の悩み等が共有できた。

- 行政栄養士になって 3 か月のため、グループワークの内容も理解できない内容もあったが悩んでいることなど同じこともあり、参考になることが多かった。また、他の県の栄養士の方といろいろ話すことができ良かったです。
- 栄養士は少数職種なので、他部門の栄養士とも連携していくことが必要だと感じた。ジョブローテーションも大切だと思いました。自分の年齢でもジョブローテーションがあればよいと思っています。
- 日頃の不安や悩みを聞き、自分だけではないのだと少しほっとしたが、グループ内でもアドバイスや参考になる取組等が聞けて良かった。
- 不安に思っていることはどこも同じで、少し安心したが、まだまだ課題があるように感じた。もっと管理栄養士間のネットワークや連携を強めて、相談できる人を増やしていくことも大切だと思った。
- 事前ワークと様式が少し変わっていて、戸惑った。時間が短かった。
- 県職員以外に市町の栄養士とも情報交換することで、仕事内容と立ち位置の違いをよく知ることができた。同じ行政栄養士でも課題がさまざまだと感じた。また、地域が近い栄養士とのグループだったので、普段の困っていることや力を入れていることが知ることができ、直接業務に活かせる内容もあって良かった。
- 今後の課題と解決策について様々な意見を聞くことができた。すぐに解決されるわけではないが、何が課題かだけでも自分が理解しておくことが解決に向けての一步だと思った。
- それぞれの市町によっての特徴や特色、事情など勉強になりました。
- 中堅期の方の意見を伺うことができ、もし将来自分も同じ立場に立つことになったときの勉強になったから。
- モチベーションがあがりました。
- 他の栄養士さんの悩みや働くうえで大切なことが共有できた。
- 主観で考えてから、他社の意見を聞くことで、目指す姿の設定の大切さを改めて思った。じっくり考えていきたい。
- 栄養士としての人材育成が今はできていないが、今後、他の栄養士とともに考えていきたい。
- 日々の業務を振り返りながら、これからの自分も振り返りながら…。年齢を重ねるほど、後輩への育成の思いが強くなるなど感じた。
- 班の中では、お母さんの立場になりつつあり、自分の働き方を見せることも大事であるけど、若い人が育つ環境づくりに力をそぎたいと思った。
- グループワークできいろんな立場・部署の栄養士の方々の考えや思いを知ることができた。
- 事前課題を作成することにより、考え方の整理ができた。また、グループワークを行うことでより理解を深めることができた。
- 人材育成の課題については同じ自治体でしか話をすることがなかったため、貴重な機会となりました。オンライン参加だったので、他グループの発表が聞こえにくかったのが残念でした。
- 一人職場のことが多く、参加者が同じ思いを抱えていると知って、少し安心した。自分もがんばろうと思えた機会をいただいた。
- 自治体規模や環境によりさまざまだが、自己効力感を感じることを見つけながら、先を見据えこれからの業務を行って行きたいと思いました。
- 他の自治体栄養士さんのお話を聞くことができ、とても充実した時間になりました。
- 不安など他市の方と話すことができ良かったです。
- ふだん感じていることについて共有することができた。他の人も悩んでいることが分かり、話を聞くことができ良かった。自分のことについても話をすることで、頭の中を整理することができた。

別記 1-6. 研修会で印象に残ったことなど（自由記載）

- 普段、行き詰ったり、悩んだりする中で、皆さんそれぞれにはるかに難題について貴重な話や考えを聞けて勉強になった。

- 自分の今の課題にぴったりの内容でした。本当にありがとうございました。
- おすすめされた本、1冊は読み切りたいです。
- 各講義ごとに2~3分振り返る機会があったおかげで振り返りしやすかったです。さすがの進行であつという間の充実した時間でした。感謝です。
- 本日はありがとうございました。豪華な講師陣で兵庫県下の職員でよかったですと思いました！
- 各市町の栄養士の状況を知ることができ、良い機会でした。ありがとうございました。
- ○○先生のはなしにあった100点を目指さなくても良いというお話が印象に残りました。積極的にいろんなことに挑戦していきたいと思いました。
- 自ら育つことができるよう、コツコツ努力していきたいです。まだの力、3割バッターでよいの言葉に励まされて頑張っていきたいです。
- 一人配置のところで、交渉力、発信力等、参考になるところがたくさんあった。自分の強みややりたいことは何か、何のためにやっているのかという○○先生の言葉が響き、それに向けて明日からできること、できそうなことは少しずつでもやっていこうと思った。
- 庁内で管理栄養士は少なく、不安なことも多いが、自分だけ思っているわけではないことに安心した。他職種と連携しながら、自分の意見もうまく取り入れたうえで、交渉したり、業務を進めていきたいと思った。今日の研修でさまざまな刺激を受けることができた。
- 本格的な研修で、とても勉強になり、日々の仕事につながる内容ばかりでした。教えていただいた本や考え方をもう一度見直し、実践したい。報告書ももう1回読み直したいと思いません。同じ地域の方とお話しできて良かったです。
- いろいろと刺激の強い1日でした。もう一度見直し、身につけようと思う。
- 交渉力を特に身につけたいと感じた。行政栄養士として存在意義を自分の中で明らかにして業務を進めて行きたいと思う。
- できないことを並べるばかりではなく、一歩踏み出してやりたいこと、やるべきことを実行していきたいと思った。
- 30点ではなく、3割バッターであると言われた○○先生の言葉がとても印象に残りました。0点ではなく、まずはできることを提案し実践してきたいと感じました。
- 厚生労働省の方のお話を生で聞いて貴重な経験でした。ありがとうございました。
- 講義1の前回と内容が被っていたところは振り返りになり、よく理解できた。
- ありがとうございました。圏域単位でも共有したいと思いました。
- ”まだ”できていないだけ、”まだ”わからないだけ、これからできる！
- 普段オンライン上でしか学習することのない講師の方から、直接、生の声を聴くことができ、かつ、自分の強み、弱みをふまえ、後輩指導や食環境整備につながる取組みを考える機会となった。ありがとうございました。
- 栄養士の仲間が全国的には増えて嬉しいことだが、今日の発表でもいろんな立場があり、○○は恵まれていると思った。若い人を大事にしたいと思った。
- 職場に持ち帰り庁内栄養士に伝達したいと思います。すべてがためになる講義・お話しでした。ありがとうございました。
- 今回の研修会により、食育計画の策定とそれに伴う事業を展開していた頃を思い出した。その時の自分の行動が適切だったと改めて感じたとともに、振り返ることで流れ等の整理ができた。また、自分が経験したノウハウを後輩達へ伝えるために、後輩達が考えてイメージができる機会をつくる必要があると思った。
- グループワークで話をすることで、自分が活用した人脈や連携についても再確認できました。同職種のモチベーション維持、向上を検討する参考になりました。
- 急遽、午後の部を欠席して、申し訳ございませんでした。今後とも研修会をはじめ、様々な情報等頂けるとありがたいです。どうぞよろしく願いいたします。
- 経済産業省が公表している「未来人材ビジョン」によると、これからの時代に必要なスキルは、現在は注意深さや責任感、まじめさが重視されるが、将来は問題発見力、的確な予測力、革新性が一層求められると示されているとのこと。時代に合うような力を身につけていきたい。

- 講義 2 がとても印象に残りました。普段健康づくり事業全般を管理しているので栄養施策に余力がなくなっていたのですが、せっかくのポジションを生かして前向きに、栄養を小出しにしていきたいと思いました。
- 交渉力はこれからスキルアップしてつけていかないといけないなと思いました。チャンスが来たときにつかめるようにこれから頑張りたいと思います。ありがとうございました。
- 普段業務に追われる中で、自分の業務について振り返る時間がないので、共有しながら考えることができ、良かったです。

表 2-1 グループワークに際しての班分け

班	構成員数 (人)	構成員の特性
1	7	保健所に勤務する勤務歴 2～6 年の者
2	5	保健所に勤務する勤務歴 2～4 年の者
3	4	保健所・衛生主管部局に勤務する勤務歴 9～26 年の者
4	6	市（保健所設置市を除く）町村に勤務する勤務歴 1 年以内の者
5	4	市（保健所設置市を除く）町村に勤務する勤務歴 2～8 年の者
6	6	市（保健所設置市を除く）町村に勤務する勤務歴 14～32 年の者
合計	32	

表2-2 新しい自治体栄養士養成プログラム試行研修会（遠隔対応）タイムスケジュール

時間	内容	担当	備考
13:00～	受付開始	遠隔研修運営会社	
13:15 13:30 (15分)	開会・挨拶・オリエンテーション	進行：由田 挨拶：厚労省 担当補佐(栄養の主流化について) ※資料確認、各担当者紹介、本日の流れ	
13:30～ 13:50 (20分)	講演Ⅰ＋関連情報の提供 ・「新しい自治体栄養士養成プログラム～経験年数に応じて身につけたいこと～」・関連情報の提供	由田（講演）・荒井（関連情報の提供）	
13:50～ 14:45 (55分)	グループワーク① 「日頃の業務で困っていること」 ※キャリアシート	GW 30分 発表 3分×5G 助言 10分 ファシリテーター：諸岡、磯部、赤堀、串田、小山、荒井と由田	適宜、参加している班員・研究協力者もオブザーブする。
14:45～ 15:00 (15分)	休憩（15分）		
15:00～ 15:20 (20分)	講演Ⅱ 「組織と仕事の進め方」	講師：田中	
15:20～ 16:15 (55分)	グループワーク②「今後どのような働き方をしたいか」・発表 ※年表＋キャリアシート	GW 40分 発表 3分×5G ファシリテーター：諸岡、磯部、赤堀、串田、小山、荒井と由田	適宜、参加している班員・研究協力者もオブザーブする。
16:15～ 16:25 (10分)	厚生労働省に出向して学んだ施策づくりの進め方	講師：厚労省 担当主査	
16:25～ 16:40 (15分)	参加者への励ましとまとめ	班員・研究協力者・可能であれば厚労省より一言	
	閉会	※アンケート記入依頼	

別記 2-1. 講演 I + 関連情報の提供についての意見（自由記載）

- ・栄養士会の実務研修会をはじめ、研修を受ける機会が多くなっているの、初めて聞く話では無かったということ、力を入れている研修ですが、全員が受けているわけでは無いということ、難しさを改めて感じました。
- ・別の研修会でもお聞きした内容ではありましたが、日々勉強をし続けることが大切なんだと思いました。
- ・やはり今までの研修ばかりでなく外の研修が必要と分かり今後そのような機会があれば積極的に参加したいと思いました。
- ・栄養の主流化がキーワードになることについて、行政栄養士の使命感、責任感をあらためて感じ、周りにも周知していきたいと思った
- ・栄養の主流化のために、栄養の分野だけでなく、他職種連携は不可欠だと再認識しました。
- ・何度聴いても身が引き締まる思いでいっぱいです。ありがとうございました。
- ・行政の栄養士は、真面目ではあるが忙しくしているけど何やっているかわからない。まさにその通りだと感じる。今後中堅期の栄養士の育成プログラムができると大変ありがたい。
- ・今回の講習会の掴みとして、引き込まれきっかけになったように思います。学びたいという気持ちになれたので、頭に入って来やすくなりました。
- ・今後も最新情報の提供機会を頂けると幸いです。
- ・今後研修会にもっと参加しようと思いました。
- ・参考文献なども学ぶことができた。
- ・事前学習を行うことで課題整理ができた
- ・自己肯定感アップのために、研修会への参加やチャレンジできることには何でも取り組んでみようと感じた。
- ・自治体栄養士の目指す職位について参考になった。
- ・自信の無さは、性格による思っていた。なりたい姿を持ち、身に付けるべき能力を学ぶ事が必要とわかった。
- ・従来の研修、新しい研修、自己効力感を高める研修という整理の仕方がとても分かりやすかった。
- ・保健部門とそれ以外の部門との体系的な連携について、目指す職位により、スキルアップの内容は異なるという点が気付きとなりました。今後の働き方、目指す姿という部分が曖昧なままで、自己研鑽という部分からも逃げてしまっていたので、これから目指す自分の姿を明確にした上で、日々の業務や研修会等に参加して、スキルアップを目指していきたいと思いました。

別記 2-2. グループワーク①についての意見（自由記載）

- ・1人配置により困っていることとして、アンサーを求めているのではなく、自分のやっていることへの共感？、「それでいいんだよ」、と言ってくれるだけでいい、と言った意見があがったが、言語化できない不安な気持ちに名前がついたようで、そうだそうだと同意できた。不安がはっきりしてきたので、これからの対処がしやすくなった。
- ・別の研修にも参加させていただきましたが、以前の研修よりもより濃いディスカッションが出来たと感じております。ありがとうございました。
- ・〇グループは、ほとんどの方が後輩の栄養士の育成などで悩んだりしていることがわかりほっとした。また職場でのストレスが発散できた。
- ・「相談相手がない」「相談しにくい」と思って閉じこもっている状況は、逆に考えると、周りに情報提供したり声かけをする側でも1人失っている状況になっていることだと思います。管内施設にもよく「〇〇の事例が欲しい」としか意見しない方がいます。事例が欲しいのは誰もが同じだと思いますが、情報を発信しない人には情報も集まらないと思っています。事例が欲しければ自分が事例提供者になるくらいの覚悟が必要で（WIN-WIN 関係）、「自分にとって」冒険的な業務を自らやってみるチャレンジ精神も必要だと考えています。一人配置の行政栄養

士でいうと、「事例」は難しく先駆的で素晴らしいことだけでなく、「これをやってみてよかった」「これは難しく大変だった」等の小さなことでも情報共有しようとするアクションが大切だと改めて感じました。一人職種一人配置は自分ひとりで業務をこなさなくては行けないプレッシャーもあり確かに大変ですが、その状況を推進力に変えられた瞬間を見逃さなければ少なくとも孤独感を感じないと思いますし、他者からの賞賛よりも自分で感じ取った成功体験が一番の自信につながると思います。

- ・どこの市町村も似たようなことが課題となっていることがわかった。
- ・グループワークの議題について事前課題内容と差異があるように感じた。もう少しグループ全員で話し合う時間が欲しかった。
- ・各市町村の様子を知ることができました。
- ・頑張ってる若い人たちがいることに感激しました。
- ・行政栄養士の経験年数が近い人達のグループ分けをしていただいたことで、似た悩みを共有でき、それぞれどういう気持ちで、どのように対処しているかを共有できたのがありがたかったです。
- ・困りごとの共有ができました。時間の関係で、ディスカッションまで至らず、課題解決のヒントや参考の情報がもう少しほしかったです。
- ・職位や業務がそれぞれ違いはあれど、不安になることは似ていた。今後も1人職場が続くこともかんがえられるので、今回、どれだけ頑張るかが大切と思った。
- ・他地域の栄養士さんの話がきけたこと、アドバイスをいただくことができたのが良かったです。
- ・他府県の栄養士の方と、意見交換をすることができ、困っていることが同じで、共有することができて嬉しかったです。
- ・同規模ではないですが各県市町村での悩みは同じような感じであったと思いました。今後の参考になりました。
- ・同年代の立場の方々だったので悩みに共感でき、自分の悩みが大事な悩みなのだと分かった。時間を割いて、考える必要があることだと思った。
- ・入庁してからの年数が似たもの同士であったので、共感できるポイントがたくさんありました。もう少し、時間が欲しかったです。内容についてもっと深掘りして聞きたかったです。悩み発表→そうなんや！一緒や、私は恵まれてる！ で思って終わってしまうのが少しもったいないと思いました。時間がないのでなんとも言えませんが、この悩みの対処法方をみんなで考えられたりすると、成功体験が聞けたり、実践に繋がるなあと思いました。
- ・悩みを抱えながら、不安を感じながら業務を行っているのは自分だけではないんだということを知ることができました。
- ・悩んでいることは同じと思った。自分の組織だけでなくこのような研修でも共有できることがわかった
- ・発表するテーマについて、予め各人が内容を考えて発表出来る体制にしておければ更にスムーズに意見交換が進むと思いました。

別記 2-3. グループワーク②についての意見（自由記載）

- ・組織について理解でき、今後必要なことが見えてきました。
- ・管理栄養士としての知識だけでなく、様々な領域にアンテナを張る必要があると思っておりませんが、なかなか時間が割けず手が回らない状況もあり葛藤していたところでした。そんな中、様々な知識や情報をご提供くださるので大変勉強させていただいております。ありがとうございます。
- ・もう少しお時間を頂き多くの内容をご教示頂けるとありがたいです。
- ・これから、キャリアを重ねる上で交渉力や人材育成のスキルも身につけながら、管理栄養士の業務の可視化に努めたいと思いました。

- ・人に合わせてばかりいたので、今後は、自分も相手も大切にしていきたい。また、小さな交渉を積み重ねることで、業務で活かしていきたい。
- ・今年度、他の研修会で計画的偶発性理論の講義をお聞きし、腑に落ちた感覚がありとても救われました。辛いことがあると周りや過去と比較しがちですが、人材育成の主人公はあくまで本人であるので、自身のおかれている状況はともかく、自身のキャリアは自身が一番責任をもって考える必要があると思います。また、「辛い」「困っている」「しんどい」「失敗した」「不安」などのネガティブな気持ちは、あって当然な感情だとして丸ごと受け入れることが自己成長に大切だと考えています。業務においてもキャリアにおいても共通して言えることですが、先輩や上司に意見を聞いたり助言をもらったとしても、結局は「自分がどうしたいのか・どう進めたいのか」、その主体性がすべてだと思います。
- ・組織の中での自分の立ち位置、スキルアップの方法とても勉強になりました。
- ・パワポ資料が欲しかったです。いい話なので、メモっていたのですが、メモが追いつかないところもありました。好奇心、持続性、楽観性、柔軟性、冒険心を忘れずにしていこうと思いました。また、一番印象に残っている「起きたことを最大限に活用する」については、今の状態になったのには意味がある、何に繋がれるのか、今できることは何なのか、恐れずにやってみるようにしたいです。
- ・初めて学ぶ内容が多く、目から鱗の講演だった。栄養学以外の学びも必要だと改めて感じた。
- ・1人配置で仕事を進めて行く上でのメンタル面で、前向きな気持ちになりました。自分の判断は間違っていなかったと思える節があり、後押しされました。
- ・「計画的偶発性理論」を活かせる心構えが持っておこうと思った。特に、交渉の基本的な妥協点が「3割できたら良い」に設定したら、気持ちが楽になる気がします。
- ・今まで、栄養士業務については栄養士間での相談じゃないと解決できないと思ってしまっていたのですが、他職種の違う視点で意見をもらうことにより、方向性が見えてくることも多々あるのではないかと、ということに気がつきました。視野を自ら狭くしてしまっていたのかなと思います。もっと周りを見ながら、視野を広げて仕事をしていきたいと思います。また、計画的偶発性についても、気付きになりました。今置かれている状況も、考え方によってはスキルアップにつながるのだと思うと、とてもポジティブな気持ちになりました。
- ・私にとって必要なスキル、交渉力をたかめるためにアサーションについての本を読んでいたの、話はごもっともなことだと感じた。またもし少し若い時に先生の話聞いていればもう少し仕事で悩んでいることがスムーズに進められたかもしれないと思った。
- ・1人や2人だけど、考え方で何とでもなると言うこと。人によって差が大きいのは、やっぱりって思いました。

別記 2-4 グループワーク②についての意見（自由記載）

- ・今後のプランについて、他の方の話聞きより具体的になりました。積極的に活動したいと思います。
- ・新任期の方々中心のグループでディスカッションさせていただきましたが、様々なご意見や思い等を聞かせていただきました。ありがとうございました。
- ・事前課題に沿っての進行ではなかったのですが、私はキャリアプランシートを上手く作成できなかったり、いろいろな方のお話を伺ったあとのディスカッションだったので、そのやりかたが話しやすかったです。ありがとうございました。
- ・発表するテーマについて、予め各人が内容を考えて発表出来る体制にしておければ更にスムーズに意見交換が進むと思いました。
- ・win-winの関係を目指すために、交渉力のスキルも必要だと思いました。
- ・楽観性を伴った業務への心構えや実行の仕方を見せてもらった。
- ・管理栄養士一人ひとりそれぞれの個性があり、バックグラウンド・強み・自分らしさも全く違うので、ロールモデルを探す前にまずは「自分」のを知ることが大切だと思います。ぶれない「自分らしさ」を持っていれば、他の職種や他の管理栄養士と比較して悲観的なこと

も少なくなると思います。そのためには栄養関係に限定しない自己研鑽と目標の見える化をすることが必要だと日々考えています。

- ・見える化に努力致します。
- ・今後の話だけでなく、どの研修会に参加しても感じるのですが、自主研修は参加者の皆さんの前向きさ、向上心、困難な仕事をどう変えて行くのかという課題に立ち向かう姿に、自分も頑張ろうと励まされます。いろんな話が聞けて嬉しいです。ありがとうございます。
- ・目標達成3割を目指し、気負いせず目の前の与えられた業務に取り組んでみようと前向きな考え方を持つことができた。欲を言えば、グループのみんなでもっと意見交換したかった。
- ・自分の業務分野以外のことも知れて、勉強になりました。全国の行政栄養士の皆様と有意義な情報交換の時間になりました。
- ・業務の見える化をどこまでできるかは、保健業務全般で大事なことだと思っています。今の立場では、自分が見せるのではなく、見せる場づくりも考えないといけないと思いました。
- ・自分が今後、どのような働き方をしたいか、どうなっていきたいか、そのために今後どう働いていけば良いか、改めて考えるきっかけになりました。皆さん具体的な目標を掲げていて、刺激になりました。
- ・グループワークでは栄養業務を見える化し、少しでも栄養士の活動を評価していくのが大切かなと感じた。
- ・〇〇〇への働きかけについてのアドバイスをいただけたこと。まだ出来ていませんが連絡先を交換できたこと。繋がりたいと思いました。
- ・同じ立場の方の、目指す将来性を聞いて、それもいいなと、自分の将来性にも真似したくなるものばかりであった

別記2-5. 厚生労働省に出向して学んだ施策づくりの進め方についての意見（自由記載）

- ・保健師ばかり厚労省に出向していると思っていたので、先輩の話は貴重だった。
- ・環境が違えば、学ぶことや感じることも違うということを再認識することが出来ました。ありがとうございました。
- ・厚生労働省で栄養の主流化に向けて保健分野にとどまらず、産業振興等も含めた多角的な視点や自治体内外の様々な関係者と連携し頑張って進めてきたことがわかりました。ありがとうございました。
- ・内容に関係なく恐縮ですが、とてもかっこよくてまぶしかったです。
- ・厚労省での業務内容について知ることができ、参考になった。講師の方の話し方も聞きやすく、スライド内容のまとめ方もわかりやすかったので、今後参考にしたいと思う。
- ・でも、いったいいつ、勉強しているのだろうか？と思いました。恐らく仕事も忙しいだろうに。
- ・他職種連携により、視野が広がることで、施策づくりのヒントになっていることは、明後日からの業務から、できることとして、他職種とのコミュニケーションを図ることからやってみようと思いました。貴重なお話、ありがとうございます。
- ・目指すことから逆算して、事業を進める考え方に対する、強さの違いを感じた。与えられた職務に真摯に向き合う事の大切さをありがとうございました。
- ・一つ一つを的確に進めていくことの必要性を感じました。
- ・主査が学んだこととして挙げていたことは、自分の普段の業務に通じるものばかりだなと感じました。大変参考になりました。
- ・他職種との連携が組織が大きくなればなるほど必要と再確認した。
- ・機会があれば、自治体と省庁の業務や意識の違いについて伺いたいです。

別記2-6. 本研修会へ意見や改善点等、自由にお書き下さい（参加動機も含む）（自由記載）

- ・日本栄養士会研修の際に本研修を知り、参加しました。
- ・公衆衛生実務研修会での御案内がきっかけで、その場で参加を申し込みました。参加対象は遠隔地域かつ一人職種一人配置ということで、まさに自身の環境だと思いました。対象人数が少

なかったのが最初は参加を躊躇しましたが、思い切って申し込んでよかったです。このような研修会を開催いただき、また意見交換の機会もいただき大変ありがたく思います。〇〇先生のファシリテートも大変勉強になりました。

- ・グループ分けが経験年数や条件（1人配置）ごとで分けられていたのが大変良かった。また、ファシリテーターや研究員がグループに入ることで、グループワークが非常に進めやすかった。・事前課題のキャリアシートに沿って進めていただき、全体で共有できるとよりよかったです。それにより、「〇年ころになるとこういう仕事を任せてもらえるようになる」や「産休育休中は～だった」、「行政栄養士でもこんな仕事ができるようになる」など、経験が浅い人たちのロールモデルを見つけられる機会になると思う。また、強みや弱み、やりがいを感じる時（点数が高いとき）などが共有できると、仲間意識（職場では一人だが、周りに仲間がいるという安堵）が一層芽生えると思う。
- ・参加した動機もきっかけも、栄養士会の研修会に参加したことからです。特に動機は、ずっと公衆衛生分野で働いている栄養士ばかりでないことを、ご存じなのかな？ご存じでないなら、伝えたいと思いました。・事前課題を拝見して、これまでしっかり振り返って来なかった自身のキャリアに向き合う大切さを感じました。・研修についてこれまでは同じ栄養士と言っても、病院や児童福祉など福祉は公民がいて殆ど民です。公でも市教委にも府費と市費がいます。公衆衛生は公だけで統一されて国、都道府県、政令、中核、市町村とあります。これを活かして研修会を統一できないものでしょうか？と強く思いました。是非ぜひお願いします。・とても学びになりましたし、ひらめきも得ました。ありがとうございました。・提出が締め切りを過ぎてしまいました。申し訳ありません。どうぞよろしくお願いします。
- ・ファシリテーターの先生が全ての意見を肯定していて、実際に肯定されるってこういうことか、とすごく勉強になりました。参加して良かったです。ありがとうございました。
- ・意見交換で、管理栄養士の業務の見せ方やアピールの点で、〇〇市が保健課専用のSNSの活用の件で、周知方法や評価について、深く聞きたかったです。可能でしたら、回答をお願いします。
- ・遠隔地中心の研修を開催くださりありがとうございました。貴重な体験をさせていただきました。zoomでも十分ディスカッションが出来たと感じておりますが、対面開催だともっともっとコミュニケーションがとれるのかなとも思いましたので、是非、機会がありましたら北海道でも対面開催していただければと思います。同じ北海道でも根室市と札幌市はとても離れていますが、その時は是非参加させていただきます。ありがとうございました。
- ・過去の所属の上司からのすすめで参加しました。
- ・学会発表がゴールでなく、上司にまとめて見せる場を設けること。認めてもらえるために頑張りたい
- ・研修会、無料で受講させていただきありがとうございます。年数が同じくらいの方のお話、とても参考になりました。職場内ではなかなか打ち明けられない悩みを聞いてもらえるのはとても嬉しいですし、今回はGWにてそのテーマで皆さんの意見も聞けたのでとてもよかったです。
- ・研修会の開催、ありがとうございました。今の環境もポジティブに捉えると、自ら学んで資質向上できる良いきっかけになるのだということに気づけました。また、目標が曖昧だったからこそ不安に感じてしまう部分も多かったのかもしれないと考えました。講師の先生、ファシリテーターの先生方のお言葉もとてもありがたかったです。参加させていただき、ありがとうございました。
- ・行政で管理栄養士として働きはじめて2年目になり、町民にとって私の存在は意義があるのか、実施している事業は前例踏襲がほとんどで本当に町民の利益になっているのかについて悩むことが増えたのが、今回研修会へ参加したきっかけの1つです。研修会への参加により、幅広く色々な知識を身に着ける必要性や完璧を目指そうとしないこと、また逆に1人職場の立場をメリットとして考えること等を学ぶことができ、大変有意義な研修会でした。
- ・今回は貴重な研修の枠で受講させていただきありがとうございました。ファシリテーターの先生が1グループに1人ついてくださったので、とてもスムーズで、先生から勉強させていただくこともできました。この研究は、参加された受講者の数年後の評価等はするのでしょうか？

今回の研修で得たことから、日々の業務に落とし込んでいきたいと思えます。ありがとうございました。

- 今回は上司からご助言いただき、県代表として自主勉として参加させていただきました。現在当県に人材育成プログラムが策定されていないため、参考にして策定に向けて動いてかなければと思います。
- 今回出会った行政栄養士の皆さまとは今後も仲間、同志としてつながり続け、お互いに励まし合い高め合えればと思います。是非、メーリングリストなど定期的につながる環境整備を期待したいです。
- 思いついて参加できてよかったです。自分だけでなく、他の市町の栄養士がどう考えているかも聞いてみたいと思えました。
- 私と同じような悩みを持っている人が他にもいることが分かって、一人じゃないんだと思えました。ありがとうございました。
- 人材育成プログラムが確立されていないため、このような研修会を活用していきたいと思えました。今後、経験を積んでいき、いつか人材育成に携わる時が来たときに、役立つことがたくさんありました。ありがとうございました。
- ○○県の市町栄養士のための会があります。ここ最近では zoom にて研修をしており、現在役員となり研修企画をしております。このような研修会が開催できたらと感じました。
- 入庁と同時にコロナ禍で、全国規模の研修会が出来なかったため、今回はとても貴重な研修会でした。ありがとうございました。特に、県職員（○○県の場合）だと数年に1回の採用しかないため、新任期栄養士対象の研修会に参加しても市町ばかりで、なかなか仕事の困っていることを共有できず、不安が解消されない数年間だったので、今回同じ保健所栄養士とお話できたことは、大変ありがたかったです。
- 有意義な研修をありがとうございます。今後、可能であれば、食改、糖尿病重症化予防、災害対応、一体的実施、母子保健などテーマを絞ってこのような研修会を実施していただけたらとても嬉しく思います。保健所圏域外の栄養士の方と情報交換ができる機会がないので、非常にありがたかったです。

参考資料 2 研究班独自のホームページ上に公開した募集要項

新しい自治体栄養士養成プログラム試行研修会：遠隔対応の実施について (参加者募集)

本研究班がこれまで検討してきた「新しい自治体栄養士養成プログラム試行研修会：遠隔対応」の参加者を募集致します。

1. 日 時 2023年3月4日(土) 13:00～16:40
2. 開催方法 Web を活用した双方向による遠隔対応研修
3. テーマ 10年後に目指す姿を達成するための新しい自治体栄養士育成プログラム
(遠隔対応による試行研修会)
4. 内 容
 - ・講演Ⅰ：「新しい自治体栄養士養成プログラム～
経験年数に応じて身につけたいこと」ならびに関連情報の提供
 - ・グループワーク①：「日頃の業務で困っていること」・発表
 - ・講演Ⅱ：「組織と仕事の進め方」
 - ・グループワーク②：「今後どのような働き方をしたいか」・発表
 - ・指定発言：「厚生労働省に出向して学んだ施策づくりの進め方」
 - ・まとめ
 - ・アンケートへの回答
5. 主な対応者 公衆衛生領域を中心とした自治体栄養士養成プログラム開発のための研究班
班員・研究協力者 ほか
6. 参加費 無料
7. 募集人数 市町村(保健所設置市を除く)もしくは保健所に勤務している管理栄養士・栄養士 35名
8. 参加登録の締め切り 2023年2月22日(水) 16:00

参加を希望される方は、事前に以下のボタンを押して、申込み画面よりお申し込みください。
参加が確定した方には、ご登録いただいたメールアドレスに参加のための URL 等ならびに事前課題についてご連絡致します。

なお、参加希望者が募集人数を超えた場合には、次の条件を満たす方を優先します。

- ① 離島の市町村や保健所に勤務している方、ならびに、都道府県庁所在地に移動するため最も速達な手段を用いても陸路で概ね2時間以上を要する市町村(保健所設置市を除く)や保健所に勤務している方
- ② 現在勤務している市町村もしくは保健所における管理栄養士等の配置が1人のみである場合